

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第42期第3四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社デジタルアドベンチャー
【英訳名】	Digital Adventure, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 矢島 重比古
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自平成24年1月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日
売上高(千円)	3,182,493	3,906,899
経常利益(千円)	59,818	67,537
四半期純利益又は当期純損失() (千円)	40,190	52,922
四半期包括利益又は包括利益(千円)	42,443	46,352
純資産額(千円)	2,550,966	2,494,930
総資産額(千円)	3,164,015	3,303,023
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額() (円)	0.74	0.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-
自己資本比率(%)	76.9	72.4

回次	第42期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	1.15

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第41期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額が計上されているため記載しておりません。第42期第3四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。
- 4 当社は、平成23年6月24日開催の定時株主総会において、定款の一部変更を決議し、決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、第41期は平成23年4月1日から平成23年12月31日までの9ヶ月間となっており、第41期第3四半期報告書は作成していないため、前第3四半期連結累計期間については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当社は、前連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。これに伴い、第41期第3四半期報告書は作成していないため、前年同四半期との比較については記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興関連需要等により、景気が緩やかに持ち直しているものの、欧米諸国の財政不安や景気の低迷、長期化する円高、新興国経済の減速、また外交問題などもあり、依然として先行きは不透明な状況となっております。

このような経営環境の中、当社グループは前連結会計年度にグループ事業再編を実施したことで、当社はマネジメントを中心としたエンターテインメントに事業集中し、イベント・ライブ開催、CD・DVDのリリース、CM出演および関連商品販売等に引き続き注力しております。当第3四半期連結会計期間においては売上高は順調に推移しておりますが、子会社に集約されたデジタルコンテンツ配信における既存サイトの売上減少傾向は、下げ止まりつつあるものの厳しい状況が続いております。

一方、利益面についてはDATVでの大型ドラマコンテンツ投入等によるコスト増により利益を確保できず減益となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31億82百万円、営業利益33百万円、経常利益59百万円、四半期純利益40百万円となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(デジタルコンテンツ配信事業)

前連結会計年度に子会社に事業が集約され、各子会社は当該事業にリソースを集中しております。スマートフォン市場の急速な拡大に対応し、既存サイトのスマートフォンでの配信を順次開始し、会員は戻り始めておりますが、売上減少は下げ止まりつつあるものの引き続き厳しい状況が続いております。

利益面では、外注費の見直しを図るなどコスト削減に努め、この結果、売上高は5億60百万円、セグメント利益は57百万円となっております。

(物販事業)

所属アーティストのCD・DVD、イベントグッズおよび関連グッズの販売が好調であったことにより、この結果、売上高は8億85百万円、セグメント利益は1億47百万円となっております。

(ライツ&メディアコミュニケーション事業)

7月に所属アーティストであるキム・ヒョンジュンのセカンドシングル「HEAT」発売に合わせて、リリースイベントおよびナオト・インティライミとの共演で「DOUBLE FANTASISTA」を開催、8月に大国男児の6thシングル「本気Magi.c」リリースイベントやSUMMER LIVE開催などを実施しております。また、日韓共同アイドル発掘プロジェクト番組「シャッフルオーディション Idol Made」を韓国放送局MBCMUSICと共同制作を開始するなど、新規事業へも投資をしております。

さらに、自社テレビ局DATVにおいては「絶対 韓美男(イケメン)！DATV 絶対観たくなる 12大ニュース」と題し、「グッバイマヌル(リュウ・シウォン主演)」「パンダさんとハリネズミ(原題)(SUPER JUNIOR ドンヘ主演)を始めとした話題作を投入し、会員獲得のためのプロモーションを展開、10月から「J:COM TV」のオプションチャンネルとしてJ:COMの全エリアで提供しております。

利益面では、自社テレビ局DATVへの大型ドラマコンテンツ投入および新規事業の先行投資等によりコストが増加しており、この結果、売上高は14億70百万円、セグメント損失は1億41百万円となっております。

(その他事業)

8月に飲食部門において店舗を全て事業譲渡し同部門から撤退しております。また、子会社の株式会社ザ・ネット・プランが5月に調剤薬局事業を立ち上げ売上を伸ばしておりますが、新店舗立ち上げ時の初期コストが吸収できず、この結果、売上高は2億66百万円、セグメント損失は30百万円となっております。

(2) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える新たな要因等は発生しておりませんが、大型ドラマコンテンツ権利購入等で現預金が大幅に減少しており、事業化の進捗次第では資金繰りに影響を及ぼす可能性があります。また、平成24年10月5日付公表の「仮処分決定に関するお知らせ」のとおり、自社テレビ局D A T Vにおいて放送予定でありました韓国ドラマ「Dr. JIN」が放送差し止めとなっており、最終的に放送ができない場合、同ドラマの購入に係る費用が経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,392,638	54,392,638	大阪証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 1,000株
計	54,392,638	54,392,638		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年11月1日からこの四半期報告書提出日までの間に、新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日	-	54,392,638	-	3,999,492	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 78,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,190,000	54,190	
単元未満株式	普通株式 124,638		
発行済株式総数	54,392,638		
総株主の議決権		54,190	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式426株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株デジタルアドベンチャー	東京都港区芝 四丁目5番10号	78,000	-	78,000	0.14
計		78,000	-	78,000	0.14

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度は、決算期変更により平成23年4月1日から平成23年12月31日までの9ヶ月間となっているため、第3四半期報告書は作成しておりません。従って、前連結会計年度の対応する四半期連結累計期間に係る事項の記載を省略しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,018,104	561,169
受取手形及び売掛金	531,011	345,610
コンテンツ	12,842	16,397
商品	3,671	73,342
仕掛コンテンツ	11,046	14,104
前渡金	179,771	1,177,565
その他	59,142	84,526
貸倒引当金	4,816	2,980
流動資産合計	2,810,774	2,269,735
固定資産		
有形固定資産	52,040	44,708
無形固定資産		
のれん	55,077	38,242
その他	75,140	64,073
無形固定資産合計	130,217	102,316
投資その他の資産		
投資有価証券	131,307	633,280
その他	223,061	158,320
貸倒引当金	44,404	44,345
投資その他の資産合計	309,963	747,254
固定資産合計	492,221	894,279
繰延資産	27	-
資産合計	3,303,023	3,164,015
負債の部		
流動負債		
買掛金	391,007	372,046
未払法人税等	-	6,080
その他の引当金	6,202	6,413
その他	407,736	218,047
流動負債合計	804,945	602,587
固定負債	3,147	10,461
負債合計	808,093	613,049
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	1,576,691	1,536,500
自己株式	32,348	32,770
株主資本合計	2,390,452	2,430,220
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	2,252
その他の包括利益累計額合計	-	2,252
新株予約権	104,478	118,492
純資産合計	2,494,930	2,550,966
負債純資産合計	3,303,023	3,164,015

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】
【 四半期連結損益計算書 】
【 第 3 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	3,182,493
売上原価	2,462,601
売上総利益	719,892
販売費及び一般管理費	686,645
営業利益	33,247
営業外収益	
受取利息	3,370
為替差益	9,429
持分法による投資利益	12,673
その他	1,190
営業外収益合計	26,664
営業外費用	
支払利息	62
その他	29
営業外費用合計	92
経常利益	59,818
特別利益	
新株予約権戻入益	1,301
特別利益合計	1,301
特別損失	
固定資産除却損	10,489
減損損失	4,626
その他	3,294
特別損失合計	18,410
税金等調整前四半期純利益	42,710
法人税、住民税及び事業税	4,159
法人税等調整額	1,640
法人税等合計	2,519
少数株主損益調整前四半期純利益	40,190
四半期純利益	40,190

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	40,190
その他の包括利益	
其他有価証券評価差額金	2,252
その他の包括利益合計	2,252
四半期包括利益	42,443
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	42,443

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
減価償却費	36,317千円
のれんの償却額	16,834千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	デジタル コンテンツ 配信	物販	ライツ&メ ディアコミュ ニケー ション	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	560,506	885,525	1,470,237	2,916,269	266,224	3,182,493
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	1	1
計	560,506	885,525	1,470,237	2,916,269	266,226	3,182,495
セグメント利益又は損失()	57,239	147,840	141,833	63,245	30,914	32,331

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

	合計
報告セグメント計	63,245
「その他」の区分の損失()	30,914
セグメント間取引消去	915
四半期連結損益計算書の営業利益	33,247

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社アルジーは、当社の保有株式の一部を売却し、連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結累計期間から通信・映像送出事業は報告セグメントとして記載する事業セグメントから除外しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	0円74銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	40,190
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	40,190
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,314

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

株式会社デジタルアドベンチャー
取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	古藤 智弘 印
業務執行社員	公認会計士	増田 涼恵 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルアドベンチャーの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルアドベンチャー及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。